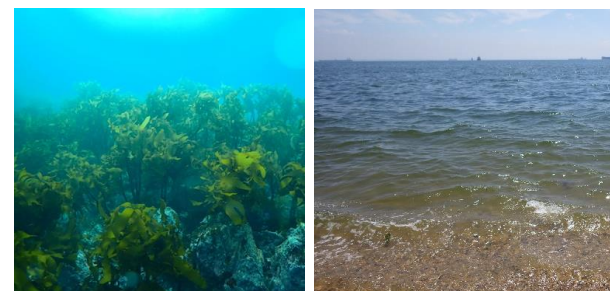


三重県沿岸海域における 漁場づくりについて

- 1. 藻場、干潟・浅場の現状
- 2. 藻場の減少要因と対策
- 3. 干潟・浅場の減少要因と対策



藻場、干潟・浅場の現状

三重県の主な海域

伊勢湾（干潟・浅場）

鳥羽志摩（藻場）

熊野灘（藻場）

※ 鳥羽志摩 + 熊野灘
= 三重外海域



藻場

アワビ、サザエ、イセエビ等、水産資源の生息場、産卵場、稚魚などの成育場

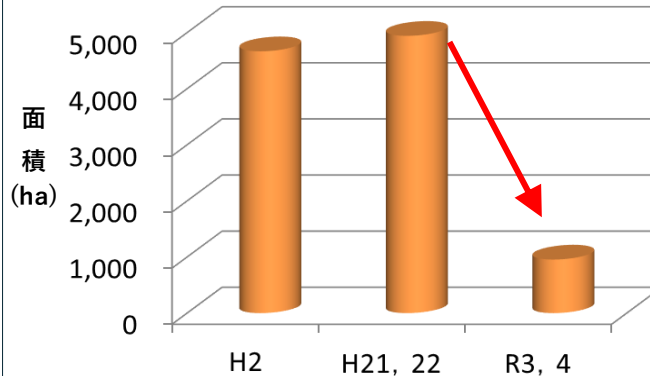


干潟・浅場

アサリ、ハマグリ、魚類等、水産資源の生息場、産卵場、稚魚などの成育場



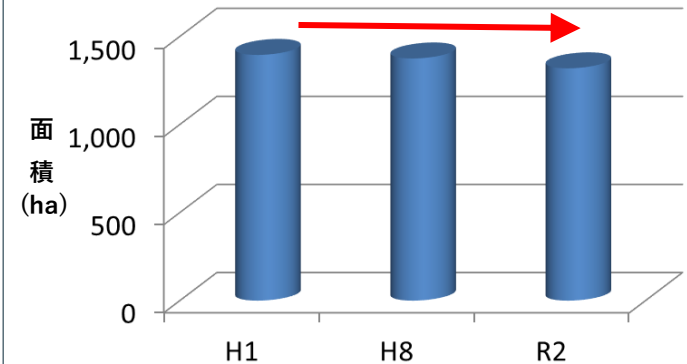
三重外海域 藻場の面積



藻場

H21, 22年 4,943ha → R3, 4年 955ha
(11年間で約5分の1に減少)

伊勢湾 干潟の面積



干潟・浅場

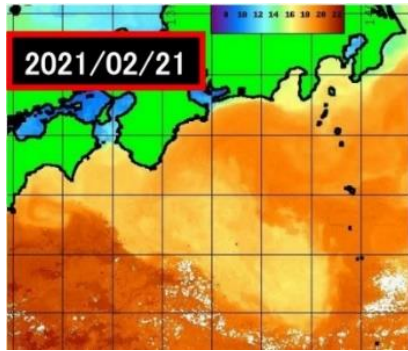
H8年 1,375ha → R2年 1,319ha
(近年は大きな増減なし)

※ 高度経済成長期の前後で約2分の1に減少

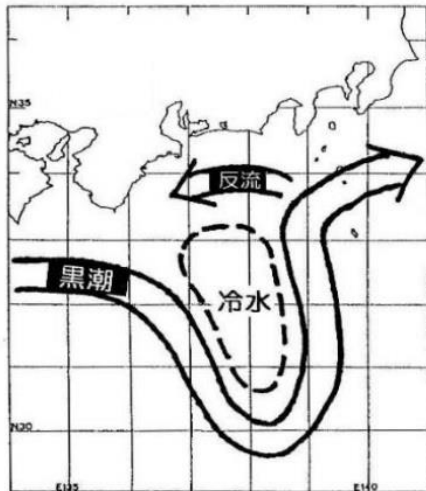
藻場の減少要因

藻場の減少要因

- ・ 黒潮大蛇行（2017年8月～）に伴う反流による沿岸域の高水温化での枯死
- ・ 魚（アイゴやブダイ）による食害
- ・ 他にも、ウニ（ガンガゼ）による食害や栄養塩類の低下など、複合的な要因が考えられる

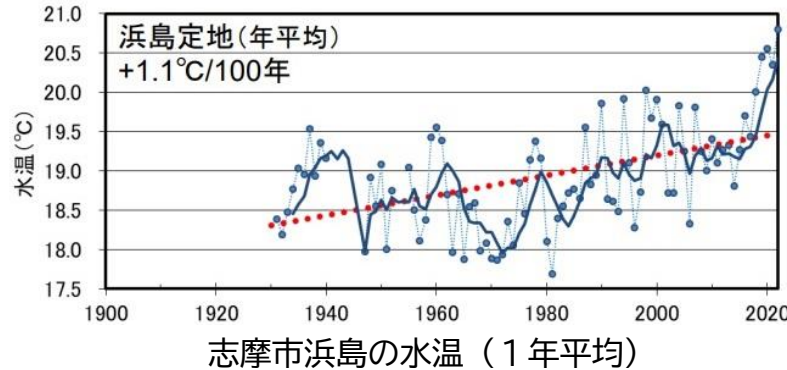


黒潮の大蛇行（表面水温）



黒潮の大蛇行流路

黒潮大蛇行と沿岸域の高水温化



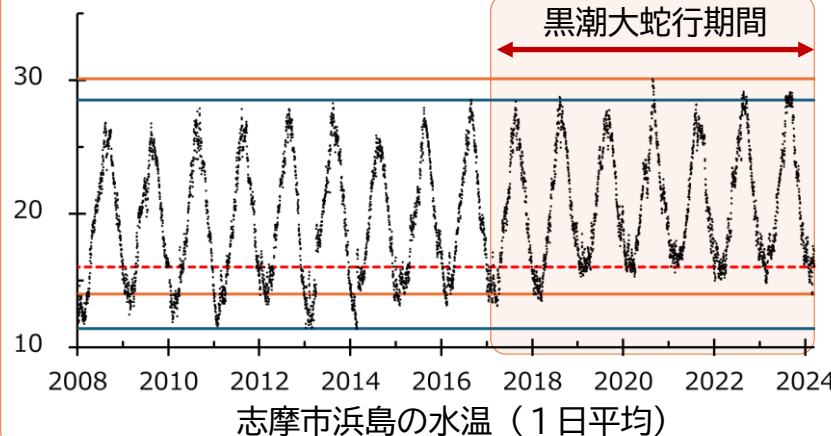
志摩市浜島の水溫（1年平均）

浜島の水溫（直近100年）

100年間で1.1°C上昇

黒潮大蛇行(2017年)以降

上昇顕著



志摩市浜島の水溫（1日平均）

浜島の水溫（直近約20年）

黒潮大蛇行(2017年)以降
高水温傾向

2016年以前と2019年以降で

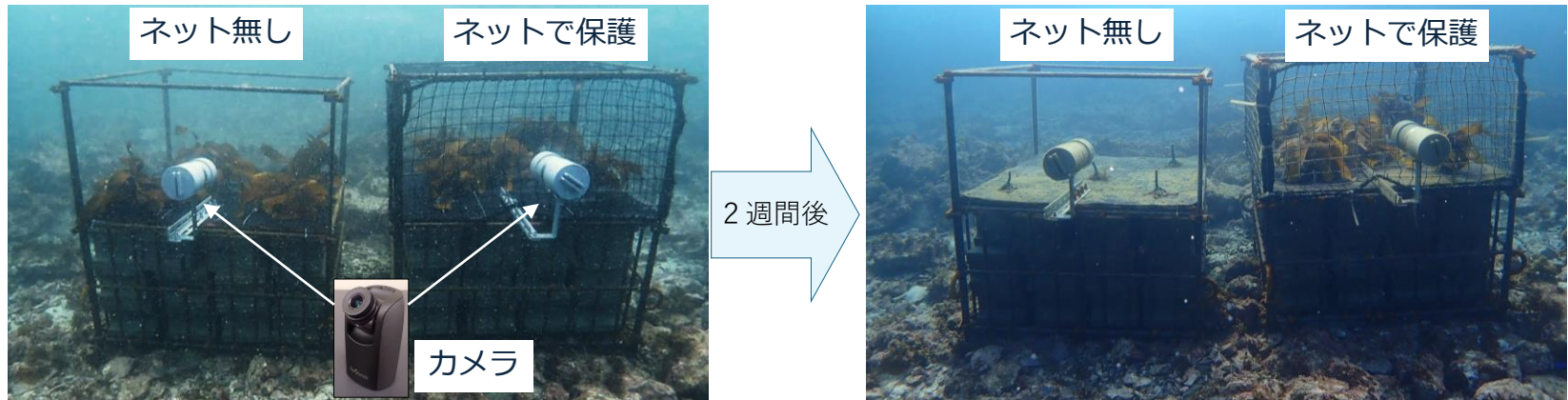
最高水温 +1.6°C

最低水温 +2.6°C

※ 冬の水温上昇 影響大

魚による海藻の食害

魚による食害に対する海藻保護試験（2022年10月 2週間）



2週間後、ネットで保護した海藻は生残
(ネット無し 魚による食害で海藻は消失)
→ 冬の水温が高く、周年にわたり食害発生



魚による海藻の食害

海藻を食べる魚



利活用



給食での提供例（答志）

海藻を食べる魚
(実は美味しい魚)
→ 利活用の動き
徐々に進行

藻場の再生・保全の取組

○ 藻場造成

「三重県外海域藻場ビジョン」に基づいて、藻礁（コンクリート製ブロック）の設置による藻場造成を実施



- ※ 藻礁の設置後はモニタリング調査を実施
- ※ 必要に応じて母藻投入、種苗移植、浮泥除去等を実施

(実績)

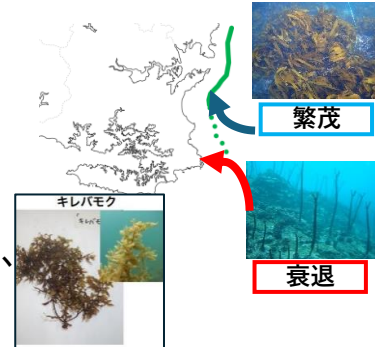
計画	年度	工区	実施面積	
第1期	H8 - H23	10工区	藻場	16.65 ha
第2期	H24 - R3	11工区	藻場	17.55 ha
第3期 (途中)	R4 - R6	6工区	藻場	3.92 ha
合計			藻場	38.12 ha

- ・ R4 - R13年度
三重外海域（16工区）において藻場造成（計画26ha）

○ 三重大学との連携

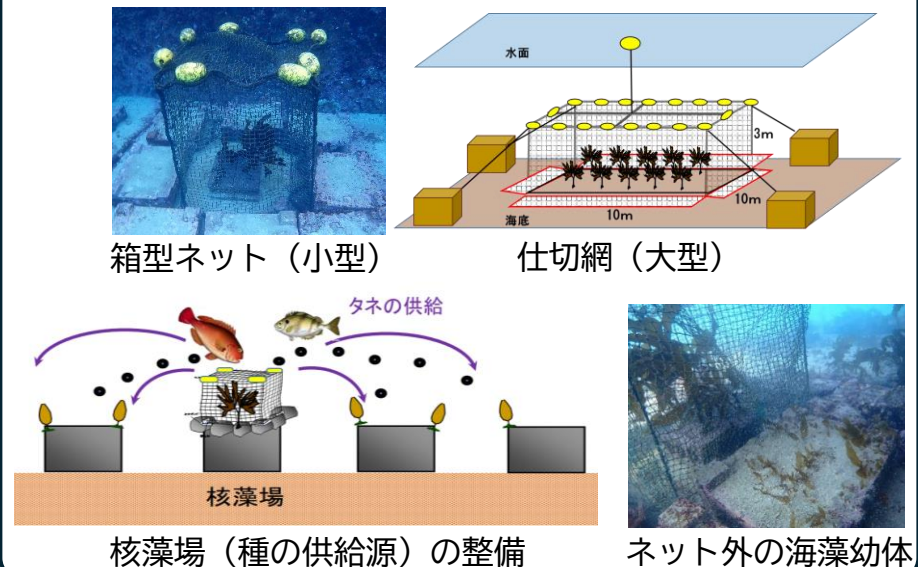
海藻の成育状況の把握、藻場の減少要因とその対策の検討推進

- ・ 志摩半島沿岸における藻場のモニタリング調査
- ・ 高水温耐性を持つ海藻の探索、南方系海藻の活用の検討



○ 魚類による食害対策

海藻をカゴやネット（網）で保護する手法の活用促進



干潟・浅場の減少要因（アサリの減少要因・対策）

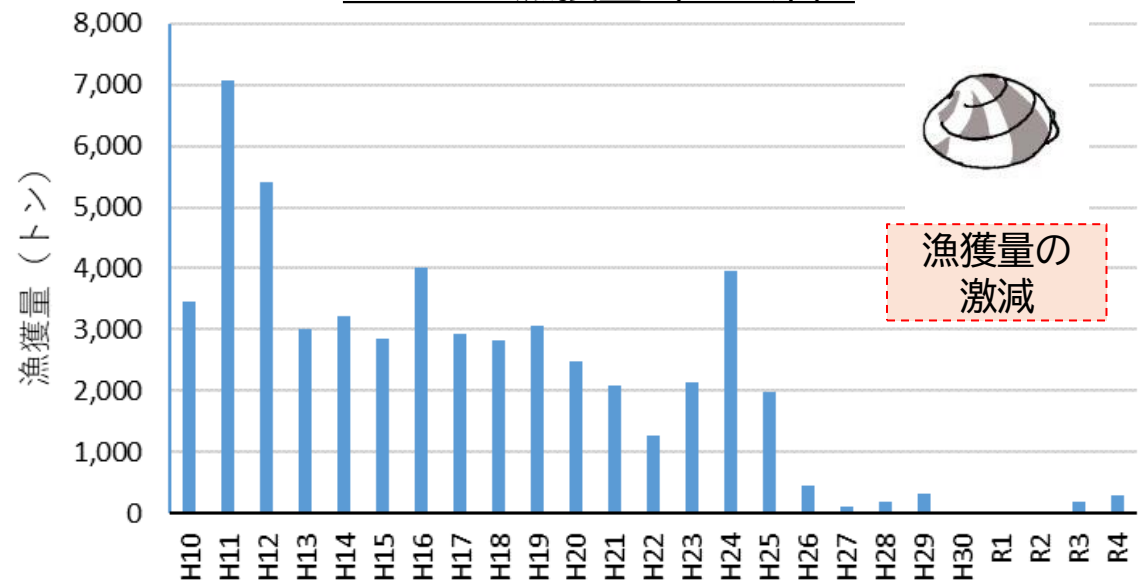
干潟・浅場の減少要因

- 高度経済成長期以降の沿岸域の埋立



県が造成した干潟

アサリの漁獲量（三重県）



アサリ 主な減少要因と対策

- ・ 生息場 干潟・浅場の減少 → 干潟・浅場の造成
- ・ 強波浪 流失・打ち上げ → 砕石の活用によるアサリの保護
- ・ 貧酸素水塊 発生面積拡大 → 伊勢湾の水質改善（3部連携）
- ・ 集中豪雨等 河口域淡水化 → 稚貝移植（漁業者）

干潟・浅場の再生・保全の取組

○ 干潟・浅場の造成

「伊勢・三河湾海域干潟ビジョン」に基づいて、干潟・浅場の造成を実施



(実績)

計画	年度	工区	実施面積
第1期	H16 - H23	松阪市	干潟・浅場 17.90 ha
第2期	H24 - R3	四日市市	干潟 3.13 ha
第3期 (途中)	R4 - R6	四日市市・津市・松阪市	浅場 1.30 ha
合計			干潟・浅場 22.33 ha

・R4 - R13年度
四日市市・津市・松阪市において浅場造成（計画12ha）

○ 碎石の活用によるアサリの保護

砂に比べて波浪に対して安定し、アサリの流出を抑える効果のある砕石を干潟・浅場造成に活用



○ 造成干潟の機能向上に向けた試験

四日市市の人工干潟で、アサリの天然採苗および人工種苗放流試験を実施 → 定着促進の検討を継続

天然採苗試験

人工種苗放流試験

アサリの着底を確認

アサリ種苗を緑色に着色して放流

生物による食害を確認



藻場、干潟・浅場の保全活動（水産多面的機能発揮対策）

○ 概要

漁業者が中心の地域の活動組織が実施主体
藻場、干潟・浅場などの保全活動を実施
(活動費 国 (70%) 県と市・町 (15%ずつ))

○ 藻場の保全

- ・令和7年度は7市町（25組織）が活動
- ・母藻の設置、海藻の種苗投入、食害生物（ウニ類・魚類）の駆除、モニタリング



母藻の設置



ウニ類の駆除



魚類の駆除

○ 干潟等の保全

- ・令和7年度は4市町（4組織）が活動
- ・耕うん、生物移殖、浮遊・堆積物の除去（漂着ゴミや流木の除去）、流域における植林、モニタリング



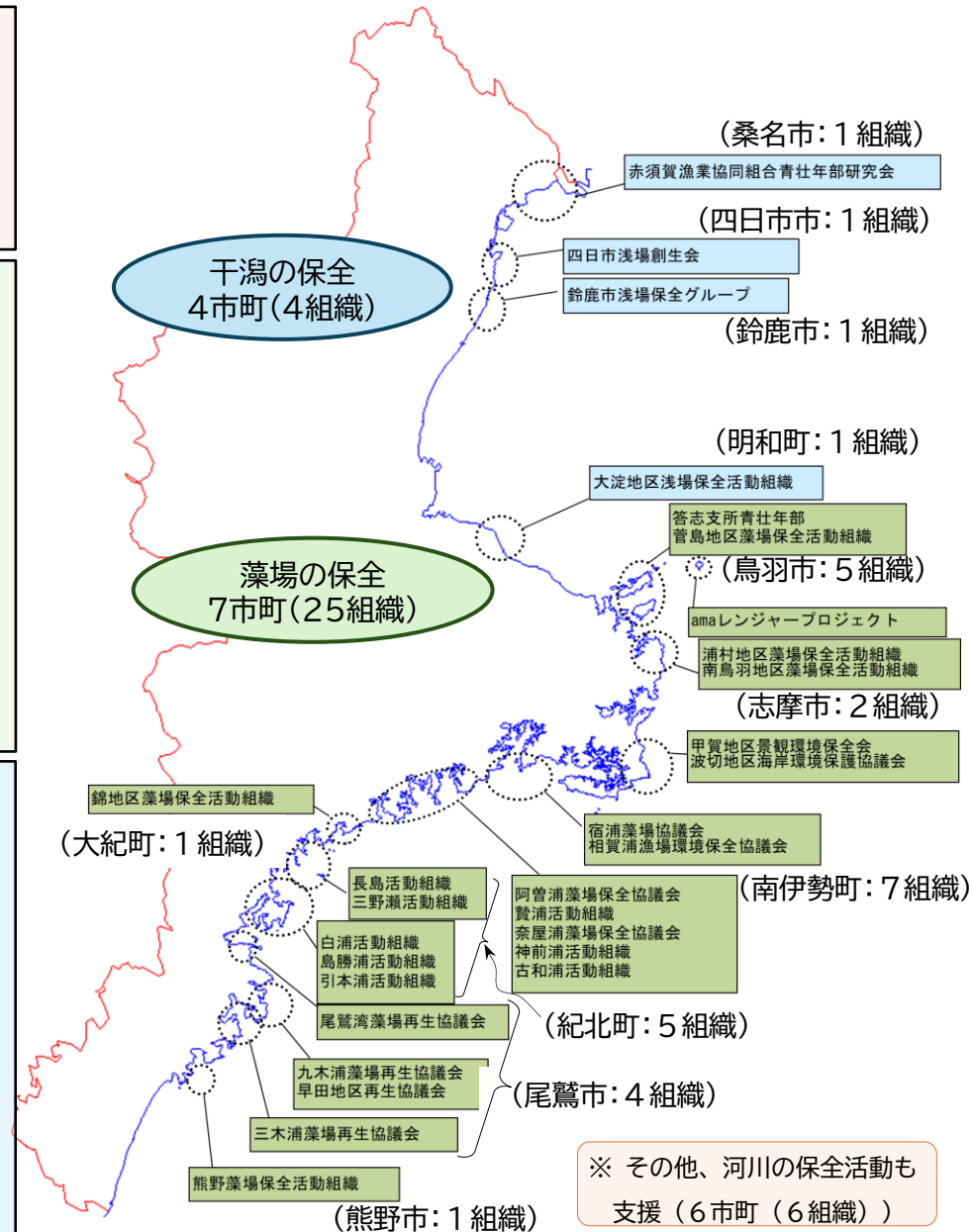
耕うん



生物移殖



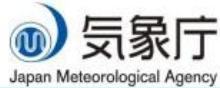
浮遊・堆積物の除去



黒潮大蛇行に関する情報

気象庁による報道発表（令和7年5月）

7年9カ月続いた黒潮大蛇行が終息する兆し



報道発表

令和7年5月9日
大気海洋部

いのちとくらしをまもる
防災減災



7年9か月続いた黒潮大蛇行が終息する兆し

2017年8月から過去最長7年9か月続いていた紀伊半島から東海沖の黒潮大蛇行^{*1}は、5月8日現在みられなくなり、この状態が持続して大蛇行が終息する兆しがあります。黒潮の流路は、船舶の運航や、魚種・漁場の位置、沿岸の海洋環境等にも影響を与えますので、留意してください。

*1：黒潮大蛇行

黒潮が潮岬で離岸した状態で安定し、かつ東海沖で北緯32度より南に位置している状態

黒潮は、2017年8月以降、紀伊半島から東海沖で南に大きく離岸して流れる大蛇行^{*1}の状態となり（平成29年9月29日報道発表「黒潮が12年ぶりに大蛇行」）、その継続期間は2025年4月中旬までで、およそ7年9か月と過去最長となっていました（表1）。

その後、黒潮の一部が東海沖で切離し潮岬沖をおおむね東に流れ、5月8日現在、大蛇行はみられなくなりました（図1）。今後、この状態が持続して黒潮大蛇行が終息する兆しがあります^{*2}。

黒潮の流路は、船舶の運航や、魚種・漁場の位置、沿岸の海洋環境等に影響を与えますので、留意してください。

気象庁は、今後も黒潮流路の変動を注意深く監視していきます。また、気象庁ホームページの「海洋の健康診断表」^{*3}にて、海水温及び海流の最新の状況を毎日更新しているほか、1か月先までの見通し^{*4}を約10日ごとに発表していますので、あわせてご利用ください。

【黒潮大蛇行の終息への期待】

- 藻場の再生による水産資源の回復に期待

【今後の対応】

黒潮大蛇行の終息に期待しつつ

- 黒潮大蛇行が終息し、高水温化が解消するか今後も注視していく
- 食害を受けにくいホンダワラ類など南方系海藻を活用した藻場造成、カゴやネット（網）を用いた食害対策等の高水温化への対応に継続的に取り組んでいく

三重県沿岸海域における 漁場づくりについて

- 4. 「ブルーカーボンに由来するカーボンクレジット」に関する取組について



三重県政策企画部企画課

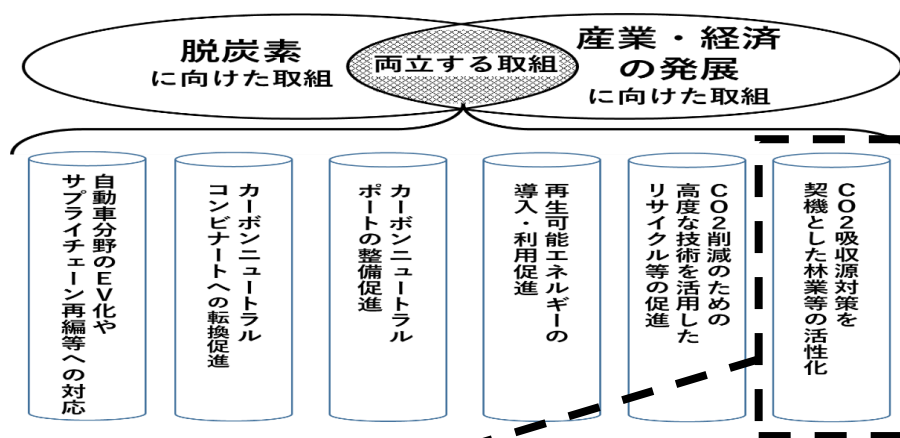
「ブルーカーボンに由来するカーボンクレジット」に関する取組について①

○ 「ゼロエミッションみえ」プロジェクト

温室効果ガスの排出削減や気候変動をリスクとしてだけとらえるのではなく、カーボンニュートラルの動きをチャンスととらえ、カーボンニュートラルの実現に向けた企業等の積極的な取組を促進することで、県内の産業・経済の発展につなげることを目的に実施。

プロジェクトの推進に係る方向性を示すため、「ゼロエミッションみえ」プロジェクト推進方針を令和5年3月に策定。

同推進方針において、プロジェクトの方向性として6つの柱を設定し、部局横断的に取組を進めている。



CO₂吸収源対策を契機とした林業等の活性化

本柱の中で、藻場の保全活動等により創出されるブルーカーボンを含めた三重の自然由来カーボンクレジットの活用推進を図ることとしている。

「ブルーカーボンに由来するカーボンクレジット」に関する取組について②

○ ブルーカーボンとは

海藻などの海中の生物に貯留される炭素のこと。

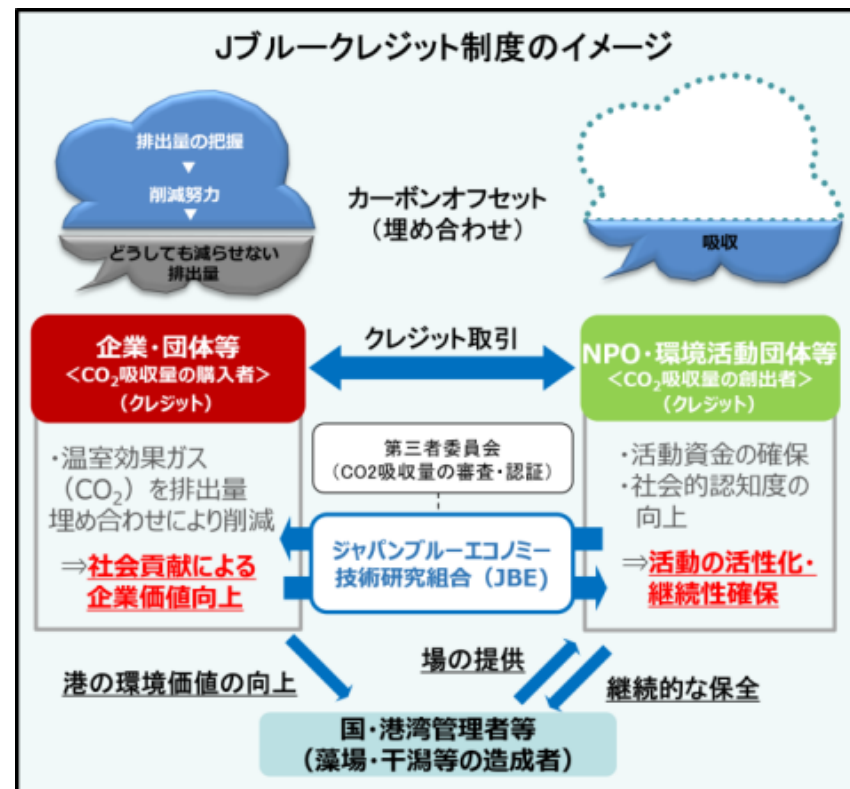
○ 「J」ブルークレジットについて

令和2年度から、ブルーカーボン生態系の保護・育成プロジェクトを対象とした「Jブルークレジット」の発行（ジャパンブルーエコノミー技術研究組合が認証する制度）が始まり、藻場の保全活動により創出された二酸化炭素吸収量について、保全活動の実施者と二酸化炭素削減を図る企業・団体等とのクレジット取引が可能となった。

○ 県内の発行団体

令和7年4月5日現在で以下の3つの団体が「J」ブルークレジットを発行し、企業等との取引を行っている。

- ・ 特定非営利活動法人SEA藻
- ・ 鳥羽磯部漁業協同組合
- ・ 三重外湾漁業協同組合



出典：港湾：ブルーカーボン - 国土交通省

「ブルーカーボンに由来するカーボンクレジット」に関する取組について③

○ 県の取組方向等

<令和6年度>

三重の自然由来カーボンクレジット活用に向けたネットワーキングイベント（ブルーカーボンのほか、森林由来のカーボンクレジットも対象にしたイベント）において、県内のＪブルークレジット発行者等がクレジット活用に関心のある企業等向けにクレジット創出の取組を紹介する機会を確保。当該イベントはクレジット発行者を含め計49名が参加。



ネットワーキングイベントの様子



Ｊブルークレジット創出者の活動
(ウニ類の駆除活動による藻場維持)

<令和7年度>

セミナー等を通じ、ブルーカーボンを含めた三重の自然由来カーボンクレジットの創出や流通が増加するよう、普及啓発を図る。

「ブルーカーボンに由来するカーボンクレジット」に関する取組について④

○ 三重の自然由来カーボンクレジット活用推進に向けた連携プラットフォームについて

三重の自然由来カーボンクレジット活用推進に向けた普及啓発、情報発信及び情報共有を行うため、令和6年10月に関係機関と設置したところであり、参画会員の拡大を図っていく。



プラットフォーム設立宣言（令和6年10月11日）

<同プラットフォーム参画会員（県を含む17団体）>
（令和7年4月1日現在 分類ごとに五十音順）

分類	団体名
カーボンクレジットプロジェクト実施者	大台町、尾鷲市、松阪市
企業・団体	株式会社エスプール、三重県森林組合連合会
金融機関	株式会社三十三銀行、株式会社百五銀行、株式会社みずほ銀行津支店、北伊勢上野信用金庫、紀北信用金庫、桑名三重信用金庫、野村證券株式会社津支店
高等教育機関	国立大学法人三重大学
行政機関	紀北町、熊野市、鳥羽市